

「ならなぎ よりみちクラブ」活動報告

報告者： 玉尾 ひとみ

日時	2025 年 1 月 15 日 (水) 10 時 00 分 ~ 14 時 30 分	天候	晴/ 一時雨	コース名： 第 52 回よりみちクラブ
案内団体 又は催事 名	伏見稲荷大社から藤森神社を巡る			人数 大人：21 名

集 合:JR 稲荷駅

解 散:京阪墨染駅

ガイド:ならなぎ会員 山下さん

行 程: JR 稲荷駅→ 藤尾社→ 伏見稲荷大社 (昼食)→ 石峯寺(せきほうじ)→ 宝塔寺→
瑞光寺→ 真宗院→ 嘉祥寺(深草聖天)→ 深草十二帝陵→ 旧陸軍第 16 師団司令部
庁舎跡(現・聖母女学院本部)→ 藤森神社→ 京阪墨染駅)

出席者: 山下(ガイド)・玉尾洋・堀内け・義田(午前のみ)・上森・嶋田・北川・澤井・橋本
嶋村・玉尾ひ・村上・奥山・吉川・武田・久賀田・樋野・山田勝・山岡・
山本・近野 計 21 名…順不同・敬称略

◆集合時間に出発、早朝に降っていた雨が止み、晴れ間が見え始めた。JR 稲荷駅前には想定通りの
人盛りだ。お正月三賀日はいかばかりであったかと想像する。

一直線に伸びた表参道の入口、一の鳥居を潜る。ガイドの山下さんの詳細で興味深い解説を
聴きながら、外拝殿、内拝殿、本殿、神楽殿、権殿、と廻り、参拝して千本鳥居に続く木製鳥居の
辺りで午前中は終了、一時解散。11 時、裏参道の食堂で各自昼食。集合時間は同地に 12 時。

【伏見稲荷大社の由来】

深草の地に根付いた秦氏族が、和銅 4 年(711)稲荷山三ヶ峰の平らな処に稲荷神を祀ったのが
始まり。もとは農耕の神様として祀られていた(稲が生る→稲荷)が、中世から近世にかけて
「商売繁昌・家内安全の神」として広く信仰されるようになった。ご祭神は、スサノオノミコトの子、
宇迦之御霊大神(ウカノミタマノオオカミ) 他四神

【藤尾社と藤森神社、伏見稲荷大社の関わり】

一の鳥居と二の鳥居の間に摂社藤尾社がある。ご祭神は藤森神社と同じ舎人親王。室町時代、
勅命により、稲荷山にあった稲荷社を山麓の藤尾に、その地の藤尾大神を藤森の地に遷した。
そのため伏見稲荷の周りは藤森神社の氏子区域になっている。これには説話が伝えられていて、
稲荷大神が、藤尾大神から土地をだましとったというもの。藤森祭の神輿は、伏見稲荷の境内に
はいり、藤尾社の前で「土地返しや」と掛け声をかけると、稲荷側から「今お留守なので！」と
やり返すやりとりが、昭和の中頃まで実際にみられたそう。おもしろい！

【稲荷社と狐】

狐は春になると山から下りできて、稲を荒らすネズミや害虫を食べて駆除してくれる。また、黄金色
のシッポが、たわわに実った稲穂にみえることから、五穀豊穡を司る神の使いとなった。

伏見稲荷の狐は白い狐。目には見えない伝説の生き物白狐を表している。

白狐がくわえているものは何を意味するのか？

稲→ 豊かに実った稲穂、鍵→ 稲を入れる蔵の鍵、玉→ 宝珠、巻物→ 知恵を司る巻物

◆時間通りに全員集合、外国人好みの千本鳥居ぐりへは行かず、奥宮を参拝して、伏見稲荷大社
をあとにした。

【石峯寺】

江戸時代の画家、伊藤若冲が晩年過ごした寺で、住職と協力して「若冲五百羅漢」を制作した。京都の名水「茶碗子の井戸」がある。

【宝塔寺】

京都にお題目を広げた日蓮の孫弟子である日象が眠る寺。元は極楽寺という真言宗の寺であったが、住職が日象に帰依してしまったため日蓮宗に改宗した。重要文化財の多宝塔は行基葺ということなので横の石段を登って見たが、瓦の差し込みに段があるか確認できなかった。

【瑞光寺】

開祖元政上人は、日蓮宗の僧であり、漢詩人、歌人。漢詩では石川丈山と並び称される。丸みをおびた総茅葺屋根がとても美しい。裏にはペットの共同墓がある。

【真宗院】

江戸時代、浄土宗の僧であり、仏師であり、歌人でもある円空が建立した寺。

◆この辺りから雨が降り出し、傘をさしての見学となった。

日本最初の歓喜天である嘉祥寺(深草聖天)、12代の天皇の陵である深草十二帝陵、現在、聖母女学院京都藤森キャンパスの赤レンガの建物は、かつての帝国陸軍第16師団司令部本部であるが、今見ると、レンガの美しいフォルムに魅せられる。

◆雨は小ぶりとなり、降ったり止んだりの繰り返し。
その後、藤森神社に向かうころには晴れ間がみえてきた。

【藤森神社】

神社の創建は平安遷都以前に遡り、神功皇后が三韓征伐より凱旋後、この地に軍中の大旗と兵器を埋納したことが起こりと伝わる。旗塚がその塚。旗塚の上に“いちいのき”の枯れた株があり、かつては”いちのきさん“と呼ばれて腰痛にご利益があるという。新選組局長、近藤勇も通っていたと伝わる。

◆この後、京阪墨染駅に向かい解散 14時30分

所感等

後半雨が降ってきて、ガイドの山下さんは濡れっぱなし。本当に申し訳なかったです。今回は20人以上の参加があり、混雑した伏見稲荷大社の境内ではマイクなしで聴き取りにくかったかもしれません。でも今は何でもすぐ検索できる時代、興味を持った部分は項目を控えておいて、自分で調べることができますね。

特記事項

特になし

